

難波田城だより

2025 春

103号

—難波田城公園・難波田城資料館ニュース— NEWS from NANBATAJO

編集・発行
富士見市立難波田城資料館
令和7年3月1日発行

今号の内容

- 「ミニ扇だこ」を作ってみよう
- 「キッズ扇だこ」を揚げよう
- みどころ紹介「障子・襖」
- ちょっといい話
- 鶴馬の地名にまつわる掛け軸
- 春のイベント予定

「ミニ扇だこ」を作ってみよう 「キッズ扇だこ」を揚げよう

市民学芸員 荒井 幸夫



扇だこ3種(左から、通常の扇だこ、ミニ扇だこ、キッズ扇だこ)



キッズ扇だこ製作風景
(2024年水谷公民館)

「富士見市の郷土民芸の扇だこ」「幕末から明治の初めに作り始めた扇だこ」「末広がり縁起の良い扇だこ」等のフレーズを見たり聞いたりしたことはありませんか。『新版 富士見のあゆみ』の182ページにも掲載されておりますが、残念ながら市内の扇だこの知名度は高くはありません。

私が所属する富士見市扇だこ保存会では、もっと知名度を上げようと、市内の公民館に常設の展示をしたり、公共施設の催しに積極的に参加をして会員による作品の展示会を開催しています。

しかし、期待したほどの効果は得られていないのが現状です。

そこで私たちは知名度を高めるため、まず子どもからとの思いで、令和4年度に資料館のイベント「ちょっと体験」で「ミニ扇だこ作り」を企画し、以後毎年実施しています。ミニ扇だこができあがったときの子ども達の“やったーの笑顔”は最高でした。同伴された親御さんも、お部屋の飾りになると大いに喜ばれました。

このミニ扇だこは、通常の扇だこ(幅103cm・縦67

cm)の約1/3の大きさ(幅35cm・縦21.5cm)で、骨組みは全く同じです。骨組みと両袖紙は事前に作成しておき、子ども達には、中央の胴紙部分の和紙に絵を描いて、貼り付けてもらえば完成です。

さらに私たちは、「キッズ扇だこ」と名付けた本当に揚がる小さな扇だこを開発しました。このキッズ扇だこの大きさは、幅42cm・縦30cmです。形は通常の扇だこと同じ扇の形をしていますが、両袖の袋はありません。竹骨は横1本、縦3本の本当に簡単な作りです。竹骨は事前に作成しておきます。

キッズ扇だこは、和紙に絵を描いてから、裏面に竹骨を貼り付けて完成させます。糸目糸を取り付ける作業はちょっと難しいのですが、子ども達の指先の練習に最適です。完成後は、自分達の作った扇だこを喜々として揚げまわっていました。

会員はなかなか増えませんが、子ども達の思い出作りができて本当に良かったと思うこの頃です。

保存会は毎月第一土曜の午前中に難波田城公園・資料館で活動しています。ご興味のある方は是非一度足をお運びください。

市民学芸員のページ *このページは市民学芸員が原稿を執筆、編集しました。

難波田城 ちょっと拝見 みどころ紹介

古民家シリーズ② 「障子・襖」

難波田城公園の古民家でも見られる障子や襖は、日本建築の大きな特徴の一つです。障子や襖は、その多機能性故に多く使われてきました。これらの建具は、単に部屋を区切るだけでなく、開閉が容易で、取り外しも簡単に行えます。これにより、部屋の使い方を自在に変えることができ、特に大勢の人が集まる行事や祭りの際には、広い空間を作り出すことができます。また、障子は光を柔らかく取り入れる効果もあり、外の雰囲気や室内に取り込むことができます。襖は絵などが描かれ装飾の一部としても有用です。

古代から中世の初めには、部屋の間仕切りをするための建具、例えば衝立や板戸などを総じて「障子」と呼んでいたようです。時代が下って、現代の障子や襖の様な建具が出てきますが、最初はそれぞれを「明障子」「襖障子」などと呼んでいました。ただ「襖」という名称が使われた理由は確固たる定説がありません。



旧金子家住宅にある障子(奥)

そして近世に入ると「明障子」が「障子」、「襖障子」が「襖」と、現在と同じような呼び方になったようです。

障子や襖には、長い歴史があり、また機能を果たすために様々な工夫がなされてきました。

皆さんも古民家で工夫の跡を探してみてくださいませんか？ (佐久間 茂)

【参考文献】むしやのこうじ・みのる

二〇〇二『襖(ふすま)』ものと人間の文化史一〇八 法政大学出版局

おもしろ・なつかし体験 [82]

ちょっといい話

このコーナーは、難波田城公園での体験学習やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

ある日の「ちょこっと体験」での出来事。親子で参加していたお母さんから、子どもの頃、「夏休み古民家宿泊体験」に参加したことがあり、今でもその時のことをよく覚えていて、とてもいい思い出になっていると嬉しそうに話してくれました。

自分の子どもたちにも同じ体験をさせたいそうです。

その親子は、その後、ちょこっと体験のリピーターにもなってくれ、家で作品を飾って楽しんでいるそうです。

ちょこっと体験は、名前のとおり、気軽に参加ができ、短時間で作ることができます。そして出来上がった作品を手元に帰って行く。そんなハードルが

低いところがいいですね。

お手伝いしている私たち市民学芸員にとっても、作品を作りながら漏れ聞こえて来る親子の会話にほっこりし、帰り際に見せてくれる子どもたちの笑顔に癒やされる時間になっています。

このような資料館での一期一会の出会いを大切に活動していきたいものです。(和田 雅子)



ちょこっと体験で作った「鬼のお面」。難波田城資料館オリジナルの「なんばった鬼」(左)もあります。

人の創ったもの★人の使ったもの

このコーナーでは、当館所蔵の資料や富士見市ゆかりの資料を紹介します。今ではあまり使われなくなったものからわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。

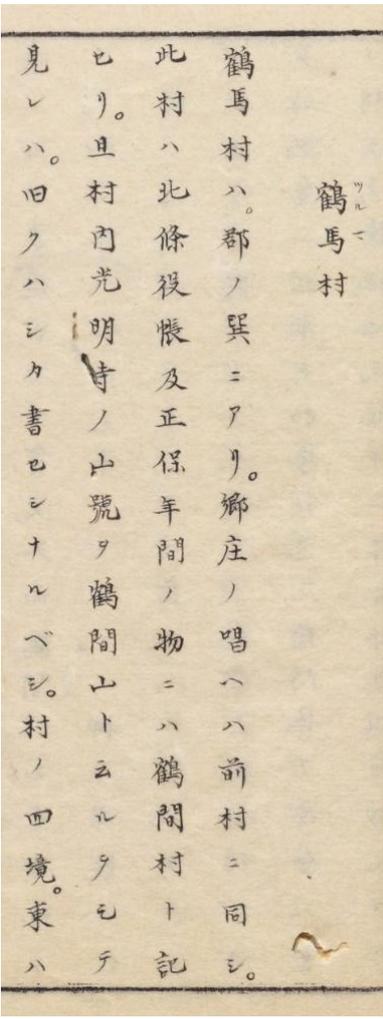
鶴馬の地名にまつわる掛け軸

富士見市内の2軒の旧家に鶴馬の地名に関係する2幅の掛け軸が別々に伝えられてきました。令和3年(2021)に「竹鶴之図」が難波田城資料館に寄贈され、令和6年に「馬図」が寄託されたことから、ミニ展示として令和7年1月18日から2月2日まで公開しました。

鶴馬村は古くは「鶴間村」と書かれていましたが、正保3年(1646)の検地の際、相模国(現神奈川県)に同じ地名があるので「鶴馬」と改めたといわれています。「新編武蔵風土記稿」は、文化・文政期(1804~29)に江戸幕府が編纂した地誌ですが、その中の鶴馬村の項にも「北条役帳及び正保年間(1644~48)の記録には鶴間村と記されており、村内の光明寺(現在は廃寺)の山号を鶴間山というのもみれば、以前はそのように書いたのであろう」と記されています。

「竹鶴之図」と「馬図」は、村名の表記が改められた際に領主から与えられたものと伝えられています。当時の鶴馬村の領主は旗本の宮崎時重と多門正勝の2人でした。二つの掛け軸の画中には、宮崎時重の嫡男重政の署名が書かれています。

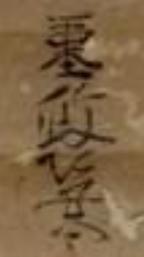
(山野 健一)



「新編武蔵風土記稿」巻165 (国立公文書館所蔵)



「竹鶴之図」(横田正志家文書)



「重政」の署名



「馬図」(横田宏次家文書)

春のイベント予定

各イベントの詳細は、広報富士見、資料館公式サイトなどでお確かめください。

●春季企画展「東上線開通110年」

大正3年(1914)に東上鉄道(現在の東武東上線)が開通、同時に鶴瀬駅が開設されました。その後110年の間、みずほ台駅、ふじみ野駅も開設されました。これらの経緯や富士見のまちはどのように変化してきたのか、文字、写真資料で紹介します。
会期/3月15日(土)~6月8日(日)
会場/特別展示室

●企画展関連講演会

「東上線開通までの道のり」

とき/3月15日(土) 午後1時30分~3時
会場/講座室
定員/30名(無料、申込順)
講師/老川^{おいかわ} 慶喜^{よしのぶ}氏(立教大学名誉教授)
申込/3月1日(土)から直接または電話で

●ふるさと探訪

「東上線開通111年」

とき/4月26日(土)午前9時~12時
集合/鶴瀬駅東口※小雨決行
主な見学地/鶴瀬駅開設の石碑、煉瓦の橋台、上沢薬師堂の百観音、さかい川など
定員/20人(申込順)
持ち物/飲み物、雨具
参加費/500円(保険料等、当日集金・バス代別)
申込/4月1日(火)から24日(木)までに電話で
主催/資料館友の会ふるさと探訪部会・難波田城資料館

●「戦争体験談」を募集します

戦後80年にちなみ、当館では令和8年春季企画展「富士見市に刻まれた戦争~戦後80年の記憶」を実施します。この展示にむけて「富士見市に所縁のある方の戦争体験談」を募集します。
期間/3月4日(火)~5月31日(土)
受付/電話、FAX、郵送、窓口、市公式サイト応募フォーム
※詳しくは市内公共施設や市公式サイトにある募集要項をご覧ください。

●ちよこっと体験「よろいを着てみよう」

とき/5月11日(日)午前10時~正午、午後1時~3時
対象/幼児(5歳以上)~大人
会場/旧金子家住宅
協力/川越藩火縄銃鉄砲隊保存会

●田んぼ体験隊(全7回)

種まきからもちつきまで年間を通して活動します。
定員/15組(1組4名以内、申込順。申込多数の場合は初参加者優先)
対象/市内在住者を含む家族又は友人
参加費/1組1000円(年間。材料費・通信費等)
申込/4月5日(土)から電話で
農業指導/柳下春良氏(地元農家)
日程/

回	内容	日付	時間
1	種まき・田うない	5/17(土)	14~16時
2	田植え	6/21(土)	14~16時
3	草取り	7/5(土)	10~12時
		7/12(土)	
		7/26(土)	
4	かかしづくり・流しそうめん	8/2(土)	10~12時
5	稲刈り	10/18(土)	14~16時
6	脱穀	11/1(土)	14~16時
7	もちつき、縄ない	12/20(土)	10~12時

●ちよっ蔵市 難波田城公園活用推進協議会主催

3月23日(日)草もち
4月27日(日)かしわもち
5月 お休み
※11時から売り切れ次第終了

田舎まんじゅう販売
第1.3日曜日 10:30~

●難波田城公園まつり

6月1日(日)に開催予定です。

〈開園時間変更のお知らせ〉

4月から9月の間、公園の閉門時間は午後6時になります。資料館と古民家は午後5時までです。



富士見市立難波田城資料館
〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1

TEL. 049-253-4664 Fax. 049-253-4665

https://www.city.fujimi.saitama.jp/madoguchi_shisetsu/02shisetsu/shiryokan/nanbatajo/index.html

◆休館日/月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日・祝日を除く)、年末年始 開館時間/午前9時~午後5時

◇公園休園日/なし 開園時間/午前9時~午後6時(4月~9月) 午前9時~午後5時(10月~3月)

資料館公式サイト

